

山梨県マンドリン音楽連盟
会長 堀口 昭



本日はご多忙中にもかかわらずご来場いただき誠にありがとうございます。

ここに第5回山梨県マンドリンフェスティバルを開催できますことは、私共にとってこの上ない喜びであります。これも皆様方の温かいご支援の賜物と深く感謝いたしております。

当連盟も発足15年目を迎えました。結成以来、加盟サークル相互の親睦はもとより、指導者派遣、技術交流、楽譜提供といった活動のほか、県芸術祭、芸術劇場、県民文化祭への参加や学校、介護施設への訪問演奏も積極的に取り組んでいます。

日本にマンドリンが渡来して120年余りになりますが、最近マンドリン音楽に接する機会も少なくなりました。

山梨県内のマンドリン音楽の歴史を見ると、作家の深沢七郎氏や飯島国男氏らがマンドリン合奏に情熱を注ぎ、甲府や近辺の商家の子弟が通った甲府商業学校のマンドリンクラブではオリジナル曲を演奏した記録が残っています。また、終戦直後には飯島氏主宰の甲府MCが定期演奏会を催したり、NHKやYBSラジオ放送に出演するなどマンドリンの華やかな音色は暗い戦後の空気の中で一世を風靡しました。

やがて、飯島氏が県内各校のクラブ活動の指導にあたること30余年、その学生達と社会人との合同演奏は県芸術祭のオープニング、県民文化ホール「こけら落とし」、かいじ国体「スポーツ芸術祭」等100人を超える演奏はまさに圧巻でした。

その当時の教え子達がしっかりと流れを引き継ぎ、そこに他大学OBも加わり、現在県下マンドリンサークルの中核となって本連盟を牽引しております。

今回のフェスティバルは「国民文化祭の提案事業」という位置付けもあり、日本におけるポルトガルギターのパイオニア、湯浅隆氏とマンドリン奏者吉田剛士氏によるユニット「マリオネット」をゲストに迎えることができました。従来のような加盟団体の合同演奏のほかに、「マリオネット」の独特のアコースティックサウンドも思う存分お楽しみいただけるものと確信しています。

最後に、フェスティバル開催にあたり、関係機関ならびにご協賛頂きました皆様に厚く御礼申し上げますとともに、本日出演のご家族ご友人の方々にも、変らぬご理解ご協力をいただきますよう併せてお願い申し上げます。

山梨県マンドリンフェスティバル
実行委員長 遠山 忍

このフェスティバルも5回目となります。

連盟発足当時、県内で同じ楽器を演奏するサークルを結集して皆で演奏会をしたいという強い思いから立ち上げたマンドリンフェスティバルですが、回を重ねると企画にもマンネリ化が見え始めました。

そんな折、国民文化祭の「提案事業」としての参加を打診され、大慌てで企画書を書き、締切り間際に提出。なんと…それが採用されたのです。

国文祭事務局から、従来のものを更に拡大した企画内容を求められました。そこで実行委員会で検討した結果が、個々のサークルの演奏はやめて、県外の奏者も含め全部を合同演奏にしようということと、プロ奏者を招聘してコラボレートしたらどうかというものでした。これに答えていただいたのが「マリオネット」のお二人でした。山梨では聴く機会が少ないポルトガルギターとマンドリンのユニットです。マリオネットの吉田氏の指揮による合同練習はマンドリンの魅力をも再認識する絶好の機会となりました。

当初の予定を大きく変更しての開催となったため、曲目選定や練習方法など、多くの紆余曲折を乗り越えてのフェスティバルとなりましたが、これを機会に、サークル相互の親睦が深まり、より多くの皆様がマンドリン音楽への関心を高めていただければ幸いです。

